

**釧** 路書道連盟が主催する第62回釧書展で、折出樹泉さんの作品が準大賞というすばらしい賞に選ばれた。

「作品を出すことに意義がある」という感じで、自分の勉強のためにやったことですが、まさかこんな賞をいただけるなんて思ってもみませんでした。これも阿部暉泉先生や書友の皆さん、家族のおかげです。昔、釧書展に出品しては亡くなつた母から批評され、励まされてきましたが、これで母にもやつといい報告ができると思います」折出さんは微笑みながらそう

話した。

折出さんは、渡部樹海先生から「樹泉」という雅号を授かった。折出さんが本格的に書道を習い始めたのは、社会人になってからのこと。折出さんは「樹海先生との出会いがあったからこそ、今の自分がいる」と語った。

「当時は公民館講座が盛んで、私も年賀状を筆で書きたいという思いから書道を始めたのですが、今もこうして続けていられるのは、樹海先生が熱心に教えてくれたからだと思います。『継続は力なり』とは、よく樹海先生から言われた

言葉ですが、この言葉がずっと私の心の支えになっています」

日本の伝統芸術である書道。折出さんはそんな日本の伝統芸術が薄れていいくことを懸念している。

「パソコンなどの普及により便利になつた一方では、字を書く機会が減ってしまいました。たとえば賞状などは、今はパソコンで簡単に作れます、やはり手書きで作られた賞状の方が一文字一文字に込められた思いを感じることが出るので、すてきだなと思うのです。そういう意味でも『書道』は無くしてはいけない日本の大切な文化だと思います」

折出さんにとって書道とは、一体何なのだろうか。

「だんだんと上手に書けるようになってきて、『楽しい』って思ったときもあったんですけど、今は苦しみというか(笑)『なんで夜中まで書いているんだろう』とか『何のために書いているんだろう』と、ふと考えてしまうことがあります。でもそういうことがあり、なんとか一つの作品が完成したときに、これまでの苦労が大きな喜びに変わるんです。書道は心の鍛錬ですね」

折出さんは、このたびの受賞で改めて思ったことがあったという。

「書を通して、すばらしい先生方との出会いや、かけがえのない書友ができたことが、私にとって何よりも一番です。皆さんと過ごしていることが、私の人生に良い影響を与えていてるのだと思います。これからも書道を続けながら、『朝は希望に起き、昼は努力に生き、夜は感謝に眠る』という言葉のように、一日一日を大切に過ごしていきたいと思います」



# 折出樹泉

おりで じゅせん

1953年7月26日生まれ。白糠町出身。本名は折出恭子。釧路商業高校卒業。2017年から白糠書道連盟の会長を務めている。町内で毎年開かれている小中学校席書大会（昨年と今年は中止）は同連盟の主催。趣味は編み物。

# 「先生方との出会いや書友ができたことが一番です」



毎週火曜日(月3回程度)の19時から社会福祉センターで書道サークルを開催しています。興味のある方は、ぜひ一緒に書道を楽しみましょう。